

## 2025年度 第10回3月期定例番組審議会議事録

1. 開催の日時 2025年3月11日(水)
2. 開催の場所 栃木放送本社会議室  
参加できない委員には資料を送付して番組をお聞きいただき、意見・感想を返信してもらう形式で開催。
3. 委員の出席 委員総数9名  
返信総数2名  
出席総数7名

出席委員名	委員長	増田仲夫
	委員	竹内明子
	委員	若井明香
	委員	高橋久夫
	委員	小川俊彦
	委員	井出智子
	委員	北條俊明
	委員	白石智子
	委員	桐生典夫

#### 4. 議 題

- (1) 「社会を明るくする運動作文朗読」

放送日 2026/2/8 日曜日 10:00～10:30

- (2) その他

#### 5. 議事内容

- (1) 「社会を明るくする運動作文朗読」について

番組視聴：放送した番組を各委員に送付して試聴して頂きました。

## 議題説明

社会を明るくする運動とは、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築くための全国的な運動。法務省が主導。

## 番組概要

社会を明るくする運動を周知するため、全国の小中学生を対象に犯罪や非行防止などに関する作文コンクールが全国で開催されており、栃木県の優秀作品を本人の朗読で放送。

## 番組提供

社会を明るくする運動栃木県推進委員会・栃木県保護士会連合会

## 出演

①宇都宮保護観察所所長 中島祐司さん②小学6年 村田さん③中学3年 湯田さん  
④小学6年 伊藤さん

## 各委員からは

○戦後の混乱期に地域住民が孤児や少年を支えた活動から始まったという歴史的背景は、非常に印象深い内容です。犯罪や非行をした人の立ち直りを支えることが、新たな被害者を生まない社会につながるという説明は、地域社会の役割を再認識させる重要なメッセージです。小中学生が自らの声で作文を朗読したことで、彼らの社会に対する深い考察がより真っ直ぐに伝わりました。どの作品も人間関係について真摯に向き合っており、大変感銘を受けます。一方で、入賞者が県北の学校に集中していた点は、運動の全県的な広がりという面で疑問が残ります。子供たちの視点を通じて地域の支え合いを再考させる、社会的意義の極めて高い番組です。

○新聞の紙面でじっくり読むのとは異なり、子供たちの「声」で伝えられる言葉には、聴く者の心に訴えかける格別の力があります。特に3番目の、亡くなった祖父について綴った生徒の作文は、涙を誘うほど心に深く響く素晴らしい内容でした。本番組を通じて、「社会を明るくする運動」が持つ本来の意義やエネルギーが十分に伝わりました。構成面については、冒頭の保護観察所長の講話が長く、作文の紹介が始まるまで待ちくたびれる印象を受けました。今後は番組の冒頭で全体の進行順序を提示したり、講話を項目ごとに区切って放送したりする工夫が必要です。内容が非常に良いだけに、聴取者を惹きつけ続けるための導入の配慮を求めます。

- 音声のみで届けるラジオという手法は、余計な視覚情報に左右されず内容に深く集中できるため、本番組に極めて適していると思います。ラジオならではの特性が存分に発揮された素晴らしい内容です。一方、冒頭の解説は原稿の読み上げ感が強く、冗長な印象を与えます。アナウンサーとの対話形式にするなど、よりライブ感のある「語りかけ」の工夫が必要です。また、表彰された「恵まれた環境」にある子供たちの視点だけでなく、実際に困難を抱え更生を目指す方のエピソードなども加えてみるのはどうか。多様な境遇の聴取者が疎外感を抱かぬよう、多角的な視点を取り入れることで番組全体のバランスがさらに向上すると思います。
  
- 「社会を明るくする運動」という名称は当初漠然とした印象でしたが、副題と解説により、犯罪防止や立ち直り支援という趣旨を明確に理解できました。冒頭の解説は少々長めですが、後の作文へと繋げる導入として不可欠であり、AI などの時事ネタを交えた点も評価に値します。選出された小中学生の作文は非常に秀逸です。子供たちの真剣な思考を「声」で届ける手法は、大人のリスナーの心を動かし、自己省察を促す啓発活動として極めて有効です。大人という言葉よりも子供の純粋な訴えの方が、聴き手の共鳴を生みます。番組全体として内容が充実しており、最後まで集中して聴取できる質の高い構成でした。
  
- 番組全体の構成や流れが非常に良く、総合的に優れた番組です。冒頭の解説では、運動の歴史や犯罪のない社会作りへの情熱が丁寧に語られ、その志に感銘を受けました。一方で、内容が充実している反面、やや冗長に感じられた点は否めません。紹介された3編の作文は、いずれも自身の体験に基づいた純粋で素晴らしい内容です。犯罪者が抱える孤独や、遠巻きに見る社会の冷たさを理解し、歩み寄りと支援の必要性を説く小中学生の姿には、大人として深く感心させられます。特に母親の体験を自身の言葉で朗読した中学生の作品は、表現力も相まって非常に心に響くものでした。次世代を担う子供たちがこれほど真摯に社会を捉えていることに、明るい未来を確信しました。
  
- 昨今の保護司を巡る悲劇的な事件もあり、犯罪者の社会復帰や再犯防止は避けて通れない極めて重要な課題です。この問題に光を当てる本番組は、地域放送局としての公益的役割を十分に果たしており、非常に深い意義があります。小中学生が自らの経験を朗読する手法は、全世代の心に訴えかける力があり、ラジオと朗読の相性の良さを再認識しました。冒頭の所長による説明も、運動の趣旨を伝える導入として適切です。今後は、作文を指導する教員の視点を取り入れるなどの展開を期待します。また、朗読の技術に個人差がある場合の演出については、本人の声の味を活かすかプロが代読するかなど、ラジオ特性を考慮した検討が必要なのではないかと思う。

○長年継続されていること自体に、この番組の大きな価値があります。紹介された事例からは、愛情を受け、多様な機会を与えられた子供たちが、深く思考できる人間に育つことがよく分かります。「良質な大人に出会うこと」の重要性を改めて痛感し、大人が周囲の環境を振り返るべきだと感じさせる内容です。保護司不足が叫ばれる中、私自身の施設での研修受け入れ経験からも、適切な導きがあれば支援は決して不安なものではありません。更生を支える訓練や研修を柔軟に受け入れられる社会体制を広げていく必要があります。本番組は、大人が子供を取り巻く環境を再考する極めて貴重な機会です。

○「社会を明るくする運動」という名称には当初、戦後の古いイメージを抱いていました。また、冒頭の保護観察所の説明が非常に長く、審議委員でなければチャンネルを変えていたほどです。当たり前の解説が続く導入部には改善の余地があります。一方で、小中学生の朗読は練習の跡が伺えるほど見事で、内容も通り一遍のものではなく深く引き込まれました。特に中学生の人間関係や偏見に関する考察には感銘を受け、検察官を目指す小学生の志の高さにも驚かされました。学校教育を通じて社会の仕組みに触れる機会を持つことの重要性を、自身の幼少期の体験とも重ねて再確認できる有意義な番組です。

○保護司の連合会や「社会を明るくする運動」の詳細は今回初めて知りましたが、非行を犯した者の背景を理解し、社会復帰を支える取り組みは極めて重要です。作文コンクールへの応募数の多さに驚くとともに、学生たちが裁判の傍聴などを通じて得た貴重な経験は、今後の人生の大きな糧となります。民間のスポンサーでは企画しにくい、人の生の声を届ける番組構成は大変意義深く、深く心に響きました。事件や紛争が絶えない世の中ですが、決して悲観するばかりではなく、一人ひとりが主体的に考え、自分にできることを模索する姿勢こそが大切です。本番組は、視聴者が社会のあり方を再考する貴重な機会を提供したと思います。

当社としては、これらの意見をもとに、今後の番組制作や広報に取り組んでいきたい旨を、各委員に伝えた。

(2) その他

6. 審議内容

上記の通りであり、特に審議決定し、答申すべきものはなかった。

7. 番組審議会の意見の概要の公表

- ① 当社の番組「栃木放送からのお知らせ」（2026年4月5日）
- ② 当社のホームページに掲載（2026年4月6日）
- ③ 当社事務局に議事録備え置き（2026年4月6日～）

以上